



ローカルSDGs四国 分科会

多文化共生型の減災社会づくり



独立行政法人 国際協力機構「NGO等提案型プログラム」

特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク





活動概要

【目的】

- 自助・共助を推進できる人材育成
- 四国の災害特性と減災対策の把握
- 平時からの減災・多文化共生ネットワークの形成
- 在住外国人向けの防災・減災教育プログラムづくり

【活動内容】

- 専門家を招き、国内外の防災や災害支援の方法を学ぶ。
- 在住外国人が多く、住民参加型・防災対策を推進している四国4県の自治体と連携し研修・ワークショップを行う。
- 多文化共生型の減災社会づくりネットワークを構築する。
- 教材開発を行う。



四国4県の実施状況

①愛媛県西条市

2021年8月 8日 研修実施済
9月18日 研修実施済
2022年2月以降 WS予定

③香川県丸亀市

2022年度 実施予定



④高知県黒潮町

2022年度 実施予定

②徳島県海陽町

2022年1月22日 研修実施済
2022年2月以降 研修・WS予定



【山崎水紀夫氏 さんすい防災研究所代表】

災害を知る・学・役立てる

多文化共生型の減災社会づくり

→四国の災害支援第一人者、全体企画、NW形成を協働で推進



【森本素史氏 西条市民生活部移住推進課長】

西条市の防災対策

→土砂災害や地震による液状化等が想定されることを把握

【國田博史氏 ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)国内事業部部長】

国際NGOが行っている災害支援

→四国内の自治体とも連携協定を締結

【県ごとのグループディスカッション】

地域での防災・減災教育の取組や

在住外国人との多文化共生に関して





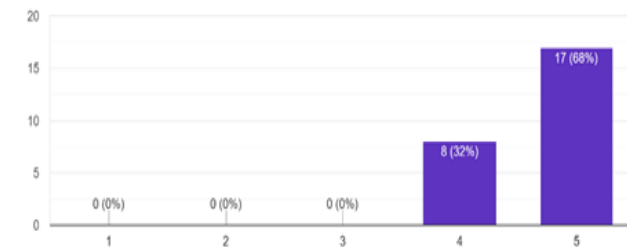
【気づいたこと】

- ・ 平時の地域防災減災・多文化共生
- ・ ネットワークの重要性
- ・ 多様な主体の連携
- ・ 良い活動を繋ぎ力を発揮できる仕組みづくり
- ・ 災害の教訓を生かし続けること
- ・ 在住外国人配慮不十分
- ・ 地域でのコミュニティ力

【ネットワーク形成に必要なこと】

- ・ 分野を超えた連携・ネットワークづくり
- ・ コミュニケーション(関係性の強化)
- ・ 情報共有の推進と還元
- ・ 柔軟な政策推進
- ・ 現状把握
- ・ 企業の参画促進
- ・ いざというときに助けあえる関係
- ・ 多様なネットワークの重なりを包括するような視点が必要

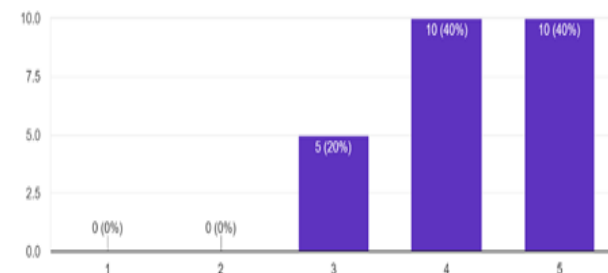
25件の回答



山崎氏の基調講演

(1:良くなかった~5:大変良かった)

25件の回答



グループディスカッション

(1:良くなかった~5:大変良かった)



【森本素史氏 西条市民生活部移住推進課長】

西条市内での**災害発生事例**の報告

→映像等を見ながら当時の災害発生状況を把握

【清水由美子氏 自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザー】

多文化共生型の減災社会づくり **災害時外国人支援**

→中越沖地震の経験から想定される事態・事前にできることを知った

【友澤宏之氏 西条市産業経済部観光振興課国際交流係長】

西条市における**多文化共生の現状**紹介

→技能実習生を中心に在住外国人は増加

【関野邦夫氏 西条市国際交流協会長】

愛媛県銚鉄鋳物**工業団地**組合の取り組みと課題

→企業での取り組み例や災害等の伝達方法

【県ごとのグループディスカッション】





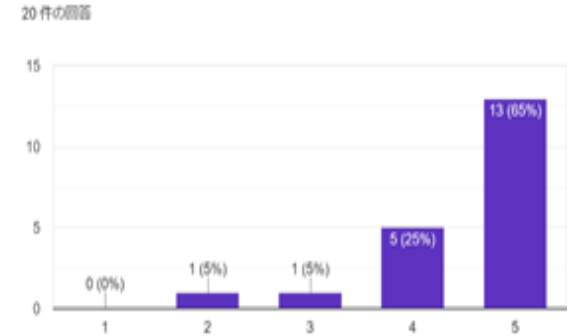
愛媛県 西条市 (9月18日/アンケート結果)

【気づいたこと】

- 国際交流視点からの見方
- 外国人は災害弱者ではなく情報弱者（支援者になる）
- 技能実習生との信頼が必要
- 一括りでなくどんな支援が必要かの視点が欠如
- 地域差・温度差がある
- 相手に寄り添う気持ちが大切
- 研修参加や体験の大切さ、意義を感じる
- わかりやすい日本語での説明
- 外国人から学ぶことも大切

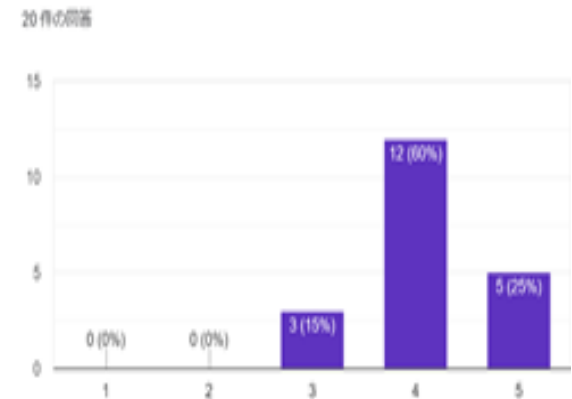
【ネットワーク形成のために必要なこと】

- 良い事例・課題の共有、意見交換 →NW強化
- 得意分野、人脈の把握・共有
- 減災社会づくりの構築に向けた全体像想定
- 外国人支援全体像の把握整理
- 自助ノウハウ伝達と共助の地域コミュニティ巻き込み
- 地域の防災訓練への参加
- 意見を寄せられるホームページ作成
- 今回の過程自体が、ネットワークの形成や人材育成につながる。



清水氏の講演

(1:良くなかった～5:大変良かった)



グループディスカッション

(1:良くなかった～5:大変良かった)



【山崎水紀夫氏 さんすい防災研究所代表】

災害発生時の**情報伝達**・命を守る**避難**経路やそのタイミングなどを学ぶ。

【奥原浩司氏 海陽町危機管理課長】

【(特非)あったかいよう】

地元NPO(特非)あったかいようの活動や町での取り組み事例発表

【柴田哲史氏 ユーディーコンサルティング(株) CEO 兼 サイボウズ社社長室 災害支援チームリーダー】

多文化共生型の減災社会づくり災害支援活動における**ICT活用**と
多文化共生の実践事例

【吉椿雅道氏 (特非) CODE海外災害援助市民センター事務局長】

多文化共生型の減災社会づくり
共に支え合い、学び合う 被災地**KOBE**の**経験**をつなぐ

【県ごとのグループディスカッション】



徳島県 海陽町 (1月22日/アンケート結果)

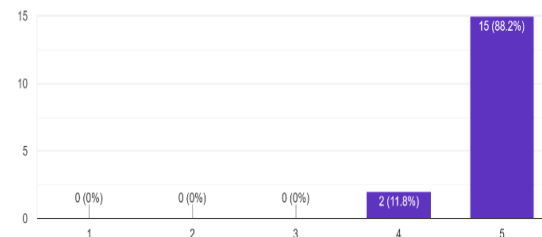
【気づいたこと】

- ・地震や津波の災害特性により避難の考え方が違う
- ・ICTの活用可能性、世界各国の災害時の知恵からの学び
- ・地域コミュニティ、地域ごとの取り組みの大切さ

【ネットワーク形成のために必要なこと】

- ・日常の延長線上に災害があるため、平時から活動共有の場が必要
- ・各現地で実際に会いコミュニケーションをとりズームなどでテーマを決めて学びあい回数を重ねる必要性

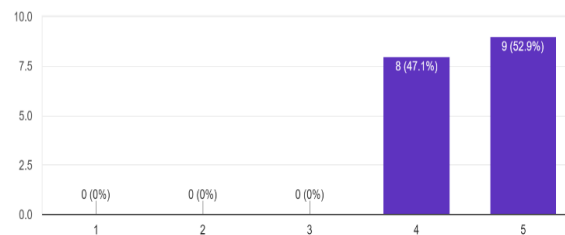
「多文化共生型の減災社会づくり～共に支え合い、...：吉椿雅道氏」の研修内容はいかがでしたか。
17件の回答



吉椿氏の講演

(1:良くなかった～5:大変良かった)

異別グループ討議について
17件の回答



グループディスカッション

(1:良くなかった～5:大変良かった)



今後のスケジュール

【研修】 / @ 場所	内 容
【ワークショップ】 @愛媛県西条市	ベトナム人技能実習生対象ワークショップ ①マイマップの作成 ②災害情報収集方法 ③避難先個人カード作成 ④平時からの取り組み体験 教材化に向けた意見交換とふりかえり
【現地研修】 @徳島県海陽町	現地での災害発生の可能性や減災社会づくりに向けた 実践状況視察
【ワークショップ】 @徳島県海陽町	中・高生を巻き込み、多文化共生の考え方を盛り込み、 在住外国人とともに学び、実践可能な防災・減災教育推進に 役立つ ワークショップ企画・実践
2022年4月以降	香川県丸亀市、高知県黒潮町で同様の研修開催予定